

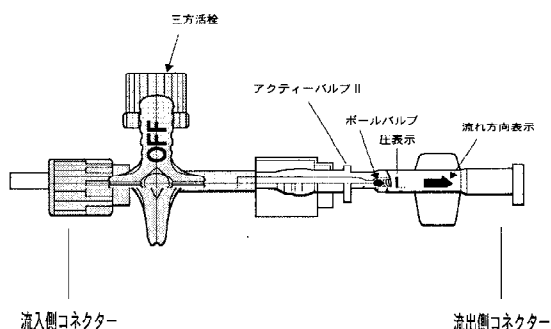
アクティールバルブ

1) 目的：術後血腫のドレナージや水頭症発症時のドレナージ時の回路として使用

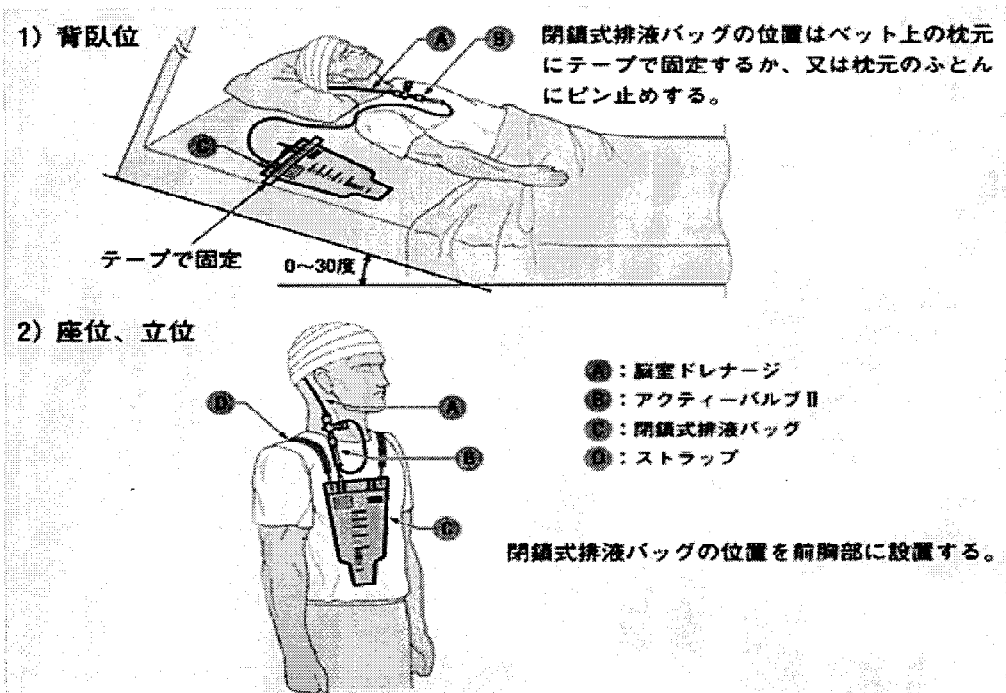
適応：患者の体位を拘束することなく、持続髄液ドレナージを行えるため ADL UP 中の患者に使用する

2) 操作方法

- 1) アクティールバルブには低圧、中圧、高圧、超高圧の4タイプがあり、患者の脳圧に応じて適切なタイプを選択する
- 2) アクティールバルブの髄液の流れ方向を確認し、バルブ本体と三方割線が正しく接続してあることを確認する
- 3) 三方活栓にシリンジを接続し、生理食塩水を注入してバルブ内のエア抜きを行うと共に、バルブが正常に機能する事を確認する
- 4) アクティールバルブの流入側コネクタを脳脊髄ドレナージ用カテーテルに接続するし流出側コネクタを閉鎖式排液バックに接続する
- 5) アクティールバルブを患者の前胸部に固定する
- 6) 仰臥位時閉鎖式バックの位置はベット上か枕元にテープで固定する。立位や坐位時はバックを前胸部へ吊り下げる（詳細は以下の図参照）



バルブ圧	表示	開放圧 (mmH2O)
低圧	L	45~90
中圧	M	95~140
高圧	H	145~190
超高圧	HH	195~240



* 注意事項

- ・閉鎖式シラスコンバックがベットより低い場合はドレナージ量が設定より多くなることがあります。
- ・MRI を行うときは三方活栓を必ず閉じてください。金属を使用しているため MRI 撮影中にボールバルブが動くことがあります。